

## II 結果のあらまし

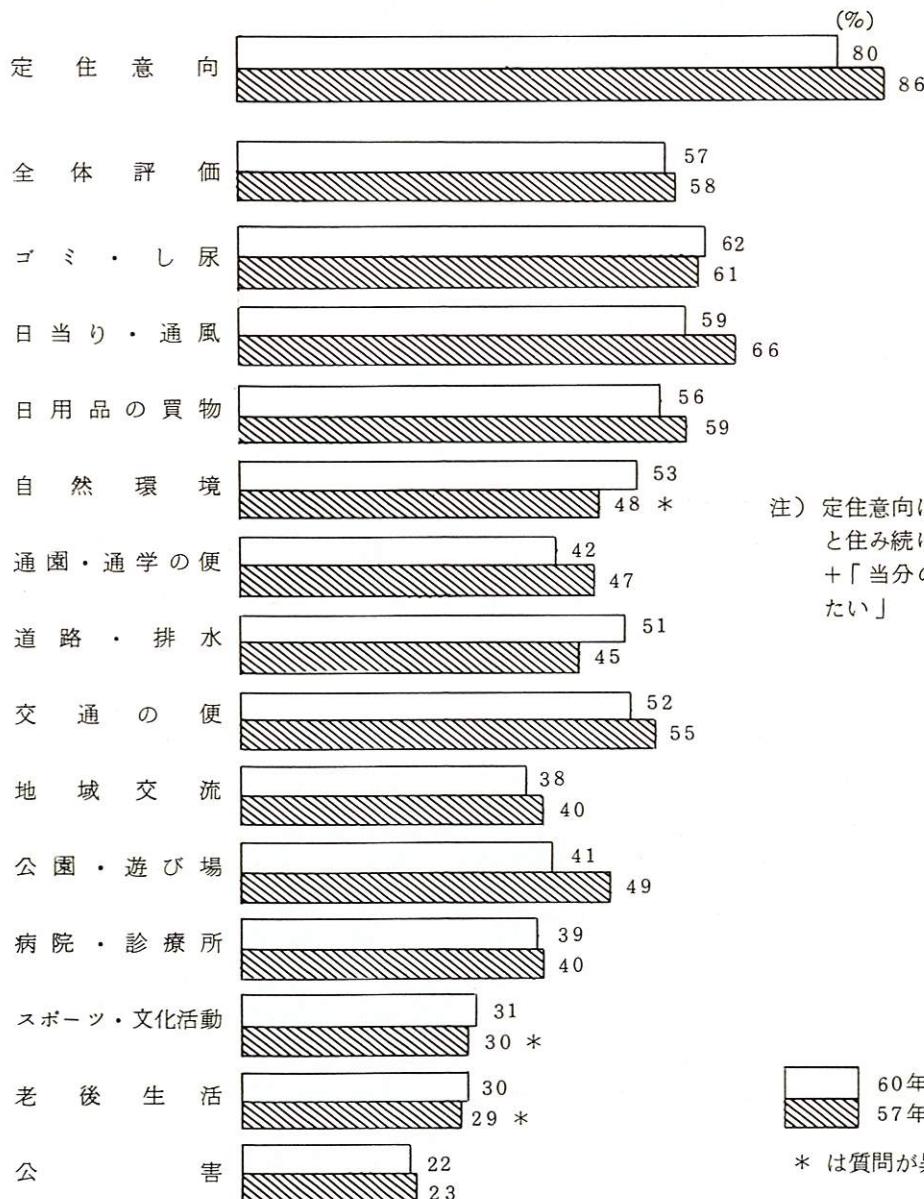
### 1. 定住意識

市民の4割(39%)は昭和50年以降の転入者で占められており、在住歴が浅いにもかかわらず、定住意向(「ずっと住み続けたい」+「当分の間住みたい」)は80%とかなり高い。なお、前回(昭和57年)調査と比べると定住意向は6%ダウンした。

注)「市民」とは20歳以上の市民のことである。

### 2. 生活環境の評価

満足度(「非常に満足」+「まあ満足」)



地域の生活環境について13項目の満足度を調査したところ、「ゴミ・し尿」など6項目が5割以上の満足度を示した。また、「公害」に対する不満はかなり高く「不満」が5割に達した唯一の項目である。なお、57年調査と比べ満足度が低下したものは「日当り・通風」、「日用品の買物」、「通園・通学の便」、「交通の便」、「地域交流」、「公園・遊び場」、「病院・診療所」、「公害」の8項目である。

### 3. 福生市の将来像

将来の福生市がどのようなまちであってほしいか。市の将来像を尋ねた。その結果、一番多いのは「緑に囲まれ、落ちついた住宅のまち」であり、ついで「空気や水のきれいな公害のないまち」であった。自然環境に恵まれた田園的な住宅都市が理想の将来像ということになる。

### 4. 横田基地

横田基地については、「国の防衛施策の施設であり、あって当然である」という意見が7%、「国政上の問題であり、あってもやむを得ない」が20%、「あってもやむを得ないが、騒音対策や生活環境整備に力を入れるべきだ」が47%と肯定・容認の立場が74%である。これに対して否定的立場は「市の発展に影響しているので、ない方がいい」12%と「必要な施設と思うが、福生市にあるのは困る」5%の合計17%である。

### 5. 市政に関する情報

市政を知る手段として「広報ふっさ・市のお知らせ」をあげた人は88%で「町会・自治会（回覧板）を通じて」44%の2倍である。

また、これまでに市政に関する情報でぜひ知りたいと思うものが「あった」と答えた人は28%で、知りたかった情報としては「税金に関するもの」、「教育・文化に関するもの」、「福祉に関するもの」、「市の方針、長期計画に関するもの」などが多くあげられている。

### 6. 市民文化

市が市民文化を豊かにするために積極的におし進めていくべきこととしては「文化施設を充実する」と「文化的なふんいきづくりをする」が2本柱としてあげられている。

また、市が公共施設をつくっていくうえで配慮すべき点としては「緑を生かすなど、自然との調和をはかる」が6割を占め、他の意見と比べ圧倒的に多い。

福生市で行われている行事の中で「七夕まつり」を見に行った人は83%、「町内会・自治会の祭礼」に参加したことがある人は50%、「ほたる祭り」は47%、「桜まつり」は38%とまつりへの参加経験はある程度多い。これに対して「市民文化祭」29%や「市民総合体育大会」19%などの文化・スポーツ関係はやや少なくなっている。

## 7. 「市民憲章」と「市の歌」

福生市に「市民憲章」があることを知っている人は39%、「市の歌」があることを知っている人は49%と半数を占め、「市の歌」の周知度の方が高い。なお、「どちらも知っている」という人は30%である。

## 8. コミュニティ

人とのつきあいや社会とのかかわりについて5つの考え方をもとにその積極性を調べた。その結果、「自分は地域の一員であるという気持ちが強い」と思う人は71%、「近所の人と親密なつきあいをしたい」と思う人は77%でいずれも7割以上が地域社会とのかかわりに積極性を示している。しかし、「地域活動はヒマのある人や、やる気のある人にまかせておけばよい」という意見に対して否定的な考えの人は61%、「災害や事故など万一の時に、隣近所の協力をあてにはできない」という考えを否定する人は57%で、地域活動に対する考え方や隣近所に対する信頼感についてはやや積極性が弱まる。「多少、自分の考えに合わない点があっても、みんなの意見に合わせたい」と思っている人が78%と多いのは、むしろ主体性のない地域社会とのかかわりを示しているようにも思われる。

ところで、住みよい地域づくりのために積極的に行なうべきこととしては、「自治会、町内会などの活動」38%、「防犯や交通安全のための活動」32%、「防火や防災などの活動」30%などが主なものとしてあげられている。

地域のことでのりたい情報は、「公共施設の利用案内」が32%でトップにあげられており、ついで「サークル活動についての情報」20%、「レクリエーション、催しものなどの情報」18%などがあげられている。

地域の情報については「掲示板、回覧板、ポスター」から得るという人が53%、これに「自治体の広報紙、パンフレット」46%が続いている。

## 9. 男女の平等意識

家庭での夫婦の役割分担について聞いたところ、「夫が仕事をし、妻が家事全般をみる」という答えが59%、ついで、「夫も妻も仕事をし、家事は主に妻がみる」が29%、「夫も妻も仕事をし、ともに家事を分担する」が9%となっている。共働きの比率は4割である。これに対して、男女の役割分担の本来の姿としては「夫が仕事をし、妻が家事全般をみる」55%、「夫も妻も仕事をし、ともに家事を分担する」24%、「夫も妻も仕事をし、家事は主に妻がみる」16%と「ともに家事を分担する」割合が多くなる。

現在の職場における男女の地位や立場について「対等の立場に立っている」とみる人は16%、「適切な区別がなされている」とみる人は36%で過半数の人が特に問題がないとしているのに対して「女性が差別されている」とみる人は25%と4人に1人の割合となっている。

女性の就労機会に対しては「十分与えられている」11%、「どちらかといえば与えられている」40%と半数が制約はないと思っているのに対して「どちらかといえば与えられていない」33%、

「まったく与えられていない」2%の計35%が否定的な見方をしている。

ところで、女性が職業を持つうえでの障害としては「家事・育児との両立や家族の協力・理解など家庭内の問題」をあげる人が53%と過半数を占め、「労働条件や給与・休暇など企業の姿勢」13%、あるいは「保育施設・内容の不十分さなど社会福祉面」10%などの社会的制約をあげる人はともに1割程度である。

## 10. 老 後

老後の不安としては、「健康のこと」をあげる人が64%と3人に2人の割合で2位以下を大きく引き離している。「収入のこと」33%、「年金のこと」30%、「身の回りの世話のこと」24%も大きな問題ではあるが、とにかく健康第一というところである。

従って、老後生活での重要な点も「健康を保つこと」67%となってくる。「生計の安定」45%、「配偶者、子供など家族とのつながり」42%がこれに続く。

## 11. 施 策 の 要 望

これから市政に対して、力を入れてほしいのは「騒音などの公害対策」38%、「社会福祉対策事業の推進」31%、「青少年の非行防止対策」26%などが特に多い。上位3位の施策の要望は57年調査の結果と同様である。